



明治時代の1銭は、今のお金でいくらぐらいなの

明治の公務員の給料5500銭が、今は15~20万円

1銭は1円の100分の1、つまり100銭が1円となります。明治時代といっても、初年から45年まで長い年月があり、お金のねうちもだいが変化しています。そこで、なるべく明治の末ごろの金額と、今のお金(円)を比較してみました。

1911年(明治44年)のお役所(公務員)の初任給が平均55円(5500銭)です。今では15万~20万円くらいですから、約3500倍くらいになったわけです。このほかの給料に關係のある金額をあげてみると、民間の工場での1日の賃金が、男性は約50銭、女性は30銭で1日10~11時間労働、大工さんの日給が90銭で、屋根屋さん(せん わぶくした)は79銭、和服仕立ての日当(にっとう)が53銭、洋服仕立て(せん ようふくした)が79銭でした。

200倍~3000倍のちがいが

ちなみに、上がりはば(あ)が少(すく)ないところで、1902年(明治35年)では5銭(5000円)だった電話料金(でんわりょうきん)が、今は市内(いま)で10円(10000円)ですから、200倍(ばい)にしか(い)な(な)って(な)ない(な)こと(こと)に(に)なり(なり)ます。牛乳(ぎゅうにゅう)は1909年(明治42年)には3銭9厘(3900円)ですから、約2500倍(ばい)ということ(こと)に(に)なり(なり)ます。上がりはば(あ)が大(おお)きい(きい)ところ(ところ)では、1912年(明治45年)に12銭(12000円)だった(せん)だ(だ)った(った)駅(えき)弁(べん)が、今(いま)は(は)だ(だ)いた(いた)い(い)1000円(100000円)ですから、約830倍(ばい)です。

こう(こう)して(して)み(み)ると、明(めい)治(じ)時(じ)代(だい)と(と)今(いま)と(と)では(では)、物(もの)によ(よ)って(って)1(いち)銭(せん)の(の)ね(ね)う(う)ち(ち)は(は)ま(ま)ち(ち)ま(ま)ち(ち)で(で)す(す)が、今(いま)のお(お)金(かね)に(に)比(ひ)べ(べ)て、200倍(ばい)から(から)3000倍(ばい)くら(くら)い(い)の(の)ち(ち)が(が)い(い)が(が)あ(あ)る(る)よ(よ)う(う)で(で)す(す)。

(監修・保岡 孝之)

